

the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER



Special Report “横尾忠則展 枠と水平線と… グラフィック・ワークを超えて”

Event Report

- 01 スゴロクぬりえに挑戦!
- 02 横尾探検隊
- 03 粋な枠ショップ

Preview

記憶の遠近術 ～篠山紀信、横尾忠則を撮る

Column

「横尾忠則展 枠と水平線と…」オープニング

Editors' Choice

MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

Information

次回展関連イベント

兵庫県立美術館 展覧会スケジュール

Information 次回展関連イベント

阪神・淡路大震災20年展
記憶の遠近術 ～篠山紀信、横尾忠則を撮る
 YOKOO by KISHIN
 2014年10月11日(土)～2015年1月4日(日)
 休館日：月曜日、年末年始[12月31日(水)～1月1日(木)] ただし10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振替休日)は開館、10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)は休館
 観覧料：一般700(560)円、大学生550(440)円、高校生・65歳以上350(280)円、中学生以下無料
 ※()内は20名以上の団体割引料金 ※当日券のみの販売となります
 ※障がいのある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く)

アーティスト・トーク | 篠山紀信+横尾忠則
 講師：篠山紀信(写真家)、横尾忠則(美術家)
 日時：10月11日(土)14:00～15:30
 会場：当館オープンスタジオ
 定員：100席(当日10:00より整理券配布)
 ※聴講無料、要観覧チケット

林英哲ライブ「Y氏と迷宮の鼓美術少年」
 出演：林英哲(太鼓)、英哲風雲の会(田代誠、辻社)
 日時：11月30日(日)18:30開場/19:00開演
 会場：当館オープンスタジオ
 定員：250名(オールスタンディング)
 観覧料：4,000円(要予約、応募多数の場合は抽選)
 申込み方法：往復はがきに希望者全員(はがき一枚につき2名様まで)の①氏名(ふりがな)、②住所、③年齢、④電話番号、⑤FAX番号(お持ちの場合)を明記のうえ、下記宛にお申込みください
 宛先：〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30 横尾忠則現代美術館「林英哲ライブ」係
 〆切：2014年11月14日(金)必着

キュレーターズ・トーク
 講師：当館学芸員
 日時：11月8日(土)、12月20日(土)
 いずれも14:00～14:45
 会場：当館オープンスタジオ
 定員：100席(当日先着順)
 ※聴講無料

兵庫県立美術館 | 展覧会スケジュール
 特別展 阪神・淡路大震災20年展 | だまし絵Ⅱ
 10月15日(水)～12月28日(日)

県美プレミアム
 小企画・特集：阪神・淡路大震災から20年(仮題)
 11月22日(土)～2015年3月8日(日)

その他
 木製憲武展 1994～2014
 10月8日(水)～11月9日(日)
 チャンネル5 木藤純子展
 12月6日(土)～12月21日(日)
 ※12月22日(月/休館日)には屋外から見る特別展示を行います
 ※兵庫県立美術館の特別展・県美プレミアム又は木製憲武展の有料チケット半券ご提示で、当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

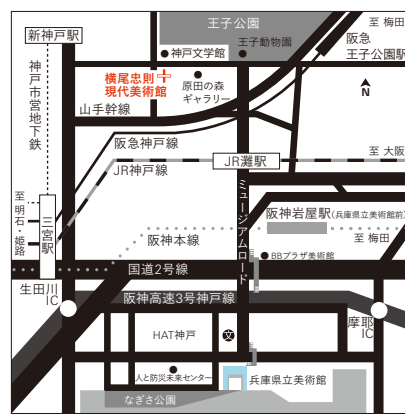
編集後記
 今年の夏は不安定な天気が続きましたが、夏休み期間中、たくさんの子どもたちが遊びに来てくれました！次号ではいよいよ当館初となる写真展を特集します。どうぞお楽しみに！(林)

やまとゆうが 大和悠河さんご来館！



宝塚をテーマにした(夢を売る妖精たち)(1965)も 4F「白玉廊下」にてバチリ！
 ご覧いただきました 素敵な笑顔にドキドキです

やまとゆうが 元タカラジェンヌの大和悠河さんが来館され、「横尾忠則展 枠と水平線と…」をご覧になりました。横尾さんと親交の深い大和さん。会場をまわりながら、展示作品をじっくりと鑑賞される姿に、案内するスタッフも思わずウットリ。お帰りの際には、ミュージアムショップで横尾さんのカラーズ作品をモチーフにした新作Tシャツをお買い上げいただきました。またのご来館をお待ちしています！



Y+T MOCA 〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
 Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
 www.ytmoca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.7
 2014年9月25日発行
 編集・発行：横尾忠則現代美術館 印刷：株式会社 大仲社



横尾忠則展 枠と水平線と… 展のための新作ポスター

当館の展覧会の見所のひとつに、横尾さん自らがデザインしたポスターがあります。開館以来、7回目の展覧会となる本展では、単純化された3色の太陽が印象的なポスターが完成しました。反復して泳ぐスイマーたちは、直接描かれることのない「水平線」を暗示するものでもあります。美術館前にはこのデザインをさらに反復させた巨大看板が登場し、注目を集めました。

展覧会は、「表現された枠」「水平線、奥行きと分割」「後ろ姿とシルエット」「空間の中の文字、フキダシ、鏡文字」「集合」「繰り返すとズラシ」「変容」という7つの章によって構成しました。それぞれのキーワードは、横尾さんの作品に特徴的なモチーフや空間を構成する要素、技法からとられたものです。また、装幀、絵画作品を合わせて展示し、異なる媒体を並置することで、横尾さんのグラフィック・ワークと絵画作品が互いに影響し合い、切り離すことができない表現活動であることを浮き彫りにしました。

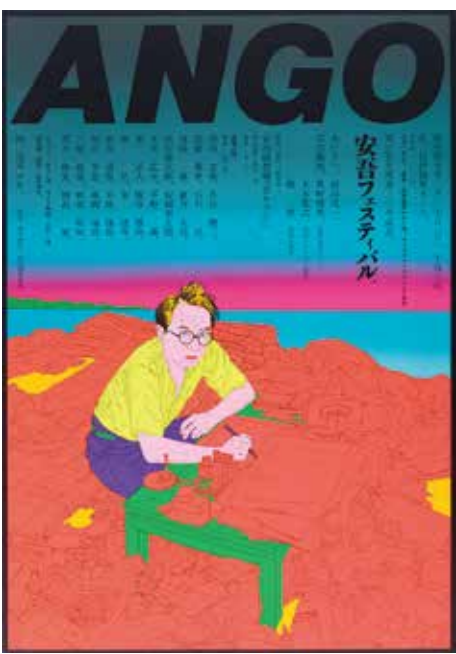
「枠と水平線」という展覧会タイトルは、膨大な数のグラフィック・ワークを調査することから生まれました。2013年度に横尾さんから寄贈された版画・ポスターは約1,400点。本展は、横尾さんのグラフィック・ワークを中心に紹介する当館初の展覧会です。横尾さんは非常に多作であると同時に、その表現方法も実に多彩です。展覧会では、作品を年代順に並べるのではなく、キーワー



《黒漸場(東京芸術劇場)》1993 | 横尾忠則現代美術館蔵

ドによって分類することにより、多彩な表現方法を通じて、その創造の根源に迫りました。ポスターは、本来、街中の雑踏の壁面に直接掲出されるものです。横尾さんのポスターには、デザインの中にあらかじめ枠が取り込まれている例を非常に多く見ることができます。絵画を入れるような金線の額、火災で構成された枠、アラベスクや宗教的モチーフが用いられた枠。これらの枠は、情報量の多い日常空間から画面を切り離し、人目を惹きつける役割を果たします。のみならず、枠は空間を構成する重要な要素であり、またコンセプトをも表現しています。本来、絵画の外側に付けられ、作品を保護し、装飾するための枠をポスターの内側に取り込むことで、作品は独特な表現の強度を獲得しているのです。

「水平線」もまた、横尾さんにとって重要なモチーフです。特に1970年代にはポスターだけでなく、装幀本にもその例を多く見ることができます。水平線は、私たち鑑賞者の視線を、ポスターという2次元の紙を超えて、画面の向こう側へと誘導し、遠い世界を想起させます。坂口安吾のポスターでは、その思想の拡がりを示唆するように架空の背景に引かれた水平線が彼の額を貫いています。浜辺や水際に描かれる出来事は、此岸と彼岸を結びつけます。一方、時には、水平線は1本の線となり、画面を分割し、造形的な可能性を広げる役割をも果たすのです。



《安吾フェスティバル(紀伊国屋ホール)》1974 | 国立国際美術館蔵

最終章では、現在も変化し続ける横尾作品の「変容」に焦点を当てました。横尾さんは、以前のポスターで使用したモチーフを、別のポスターや作品に変容させています。時には、初出から50年以上を経たデザインの「変容」も行うことがあるのです。展覧会では、デザインの共通する作品を組み合わせてご紹介しました。「変容」にかけた歳月の拡がりや複雑なバリエーションへの取り組み方を見るとき、単純な流用には留まらない、横尾さんの創造に対するあくなき欲求を知ることができます。また、自らデザインしたポスターに、上からペインティングを重ねることで、新たな作品として蘇らせようとする試みも行っています。あらゆる制限を超えた表現への追求が、グラフィック・ワークを超えた作品群を創り出しているのです。

橋本こずえ | 本館学芸員



原画や装幀も並ぶ「変容」展示風景

Preview 記憶の遠近術 ～篠山紀信、横尾忠則を撮る YOKOO by KISHIN

2014年10月11日(土)～2015年1月4日(日)



《三島由紀夫と横尾忠則》1968 | 撮影:篠山紀信

本展は、写真家 篠山紀信の撮影により、美術家 横尾忠則と彼に影響を与えた人々とが共有した時間に焦点をあてた写真集『記憶の遠近術』によるものです。同書はもともと横尾と、彼にとってのアイドル的な人々ととの2ショットによる写真集として構想され、1968年、三島由紀夫との写真から撮影が開始されました。多くはスタジオ撮影であり、相手のキャラクターにあわせて横尾がコスプレするなどの演出が施されています。遠近を強調したモデルの配置や人体が織りなすフォルムの強調は、同時期の篠山の作品《The Birth》(1968年)などにも共通しています。両者が多忙を極めるなか撮影は一時中断しますが、雑誌の企画がきっかけとなり、1970年、横尾の郷里である兵庫県西脇市を舞台に撮影が再開します。...

本展では、同書に収録された写真から約70点を厳選し、その後に撮影された数点を加えて構成します。篠山紀信と横尾忠則の両者にとって重要な転換点であった60年代末から70年代半ばにかけて撮影された貴重な写真の数々を、ぜひご堪能下さい。

山本淳夫 | 本館学芸課長

Column 「横尾忠則展 枠と水平線と…」オープニング



開会式で軽妙なスピーチをしてくださった横尾さん



《左から》妻豊当館館長、横尾さん、山田監督、横尾泰江夫人、井戸兵庫県知事

台風8号の影響で、一時は開催も危ぶまれた「横尾忠則展 枠と水平線と…」のオープニング。横尾さんに無事ご来館頂けるかどうかを揉むスタッフ一同でしたが、当日はなんと台風一過の快晴。びかびかの青空とともに、横尾さんが久しぶりに神戸にやって来られました! 開会式のスピーチでは、今回の展覧会のポスターデザインについて、「これまでの自分のポスターを裏切るようなポスターにしたいと思いました」語り、「完成したときは『変なポスターが出来たな』という感じ。でも意外と評判が良いんです。だから、今後しばらく展覧会のポスターはこのデザインにしようかな」と冗談めかして、会場の笑いを誘っていました。さらに、今回はスペシャルゲストとして、映画監督の山田洋次さんがご来館され、開会式に出席されるサプライズも! 山田監督と横尾さんはご近所同士で、「毎週一回おそば屋で顔を合わせて、二次会にぜんざいを食べに行く」仲なのだとか。翌日には、横尾さんご夫妻と一緒に、震災直後、最後の真さんシリーズのロケを行った長田区を散策された山田監督。神戸の街を満喫していただけたでしょうか。またいつでもお待ちしております!

林 優 | 本館学芸員

EVENT REPORT 01 美術館に壁画を出現させよう 「スゴロクぬりえに挑戦！」

2014年5月4日(土) 14:00-16:00 | 当館 オープンスタジオ(1F)、展示室



「スゴロクぬりえ」を前に興味津々な参加者



サイコロを振ってスペシャル枠を目指す!

んぐ」からヒントを得て、「スゴロクぬりえ」を考案しました。ぬりえの全ての枠内に、あらかじめ1～6の数字を振っておきます。別に用意したスゴロク盤には、マスごとに色の塗り方が指定されています。出た目と同じ数字の枠内をスゴロクの指示に従って塗っていくのですが、単に色が指示されているだけではありません。数種類のスペシャルマスが用意されているのがポイントで、それに当たると、好きな色で星柄やチェック柄を塗ることができるのです。他にも、「片足で立って塗る」や「効き手と逆で塗る」などの項目も。思い通りに塗れないこのぬりえは、最後までどんな仕上がりになるのか、誰にも予想が付きません。



大盛り上がりでどんどん塗っていきます



真剣な眼差し

の人が力を貸してあげたり、背の届かない子どもを力持ちの大人が抱っこするなど、自然と協力しあう姿が。初対面とは思えないチームワークの良さで、どんどんカラフルなぬりえになっていきました。出来上がった作品は、横尾作品に負けないくらい(?) サイケデリックな色合いになりました。展覧会を見にいらっしやったお客様からは「この作品をグッズにしたい!」という嬉しいお言葉も頂戴しました。完成した作品の前での写真撮影は、皆さんとてもいい表情です。



細部まで気を抜かせん



完成作品を前に記念撮影。ステキな笑顔です!

企画展「阪神・淡路大震災20年展 横尾探検隊 LOST IN YOKOO JUNGLE」の開催に合わせて発行された『ぬりえ・横尾探検隊』(株式会社 芸術新聞社刊)には、13点の横尾作品がぬりえになって掲載されています。展覧会関連イベントとして、この本に収録されている《真実が現実になるとき》を巨大サイズで出力し、オープンスタジオを彩る壁画にすることにしました。単にぬりえをするだけでは味気ないので、『美術手帖』1967年1月号の付録「さいころ・はぶに」からヒントを得て、「スゴロクぬりえ」を考案しました。ぬりえの全ての枠内に、あらかじめ1～6の数字を振っておきます。別に用意したスゴロク盤には、マスごとに色の塗り方が指定されています。出た目と同じ数字の枠内をスゴロクの指示に従って塗っていくのですが、単に色が指示されているだけではありません。数種類のスペシャルマスが用意されているのがポイントで、それに当たると、好きな色で星柄やチェック柄を塗ることができるのです。他にも、「片足で立って塗る」や「効き手と逆で塗る」などの項目も。思い通りに塗れないこのぬりえは、最後までどんな仕上がりになるのか、誰にも予想が付きません。

この日は16名の参加者が集まり、なかなか順番が回ってこないのでは…と思いきや、塗るのに集中しているとあっという間に自分の番に。丁寧に隅から塗っていく方、大胆なペンさばきで塗っていく方、ペンの太さを巧みに使い分けて器用に塗っていく方など、塗り方にも個性が表れます。様々なタッチが並ぶことで、線画だけのシンプルなお絵に変化がついて、次第に面白い画面になっていきました。

1人で大きな枠内を塗るのに苦労していると、他の人が力を貸してあげたり、背の届かない子どもを力持ちの大人が抱っこするなど、自然と協力しあう姿が。初対面とは思えないチームワークの良さで、どんどんカラフルなぬりえになっていきました。出来上がった作品は、横尾作品に負けないくらい(?) サイケデリックな色合いになりました。展覧会を見にいらっしやったお客様からは「この作品をグッズにしたい!」という嬉しいお言葉も頂戴しました。完成した作品の前での写真撮影は、皆さんとてもいい表情です。

最後にオリジナルの《真実が現実になるとき》を、展示室にみんなで探しに行きました。自分たちが塗った色とあまりにも違いすぎて、作品の前に来ても気付かずに通り過ぎてしまう子も。同じ作品でも色が違つとこんなに印象が違つのか! という新鮮な驚きを感じる事ができました。ぬりえをすることで、横尾作品の魅力の一つである「色」に注目するきっかけになったのではないのでしょうか。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 02 隊員募集! 横尾ジャングルを探検しよう! 「横尾探検隊」

2014年4月29日(火)、5月24日(土)、6月8日(日)14:00-15:00 | 当館展示室

美術館スタッフと一緒に作品を見ながらお話しするイベント「横尾探検隊」。普段は美術館の裏側で働いている私にとって、お客様が作品を見て感じたことや疑問に思ったことを直接お聞きできる貴重な機会です。作品の魅力が発見したときの表情は皆さんキラキラしています。私自身、お客様の一言で気付かされることも多々あり、発見の場となっています。展示室を一巡した後に、「Aokigahara, Linda and Richard in Saipan, February 23, 1984」をじっくりと鑑賞しました。「どんな季節なのか?」「描かれた人物は何をしているのか?」など、



《Aokigahara, Linda and Richard in Saipan, February 23, 1984》の展示風景



作品のエピソードに耳を傾ける参加者のみなさん

ワークシートを片手に細部まで見ていきます。同じ作品を見ても注目する点も感じることも十人十色です。今回も様々な意見が出ました。

互いの感想を共有することで、新たな作品の魅力に気付くことができたのではないのでしょうか? 作品を鑑賞する一つの方法として、隣にいる人と是非言葉を交わしてみてください。きっと面白い発見があるはずですよ。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

EVENT REPORT 03 イキワーク 粋な枠ショップ

2014年8月8日(金)13:30-16:00 | 当館 オープンスタジオ(1F)、展示室



版を保護するための乳剤を丁寧に塗っていきます



刷り上がった作品を見てにっこり

枠が特徴的な横尾さんのポスターに倣って、既存の横尾作品にステキな枠を考え、シルクスクリーンで印刷するワークショップを開催しました。まずは企画展「枠と水平線と…」に出品された絵画の中から、枠をつける題材となる作品を1点選んで、気付いたことをワークシートに書いていきます。1つの作品を30分もかけて鑑賞するのは初めての子もいましたが、じっくり集中して見ていくと色々な発見をすることができました。

次に、展示室で選んだ作品にどんな枠が似合うのか、自分が感じたことを元に考えていきます。天の川が描かれた作品にはキラキラした枠、春の夜を感じさせる作品には花模様の枠、という風にデザインしました。そしていよいよシルクスクリーンの版作りです。参加者は全員シルクスクリーン初体験。専門的な材料を使う複雑な作業工程に、これから何が始まるのか不思議そうにしていたのですが、じょじょに出来上がっていく版に驚きと感嘆の声があがりました。印刷の工程を終え、版の下から刷り上がった作品が現れると笑顔が広がります。納得のいく刷りが出来るまで何度も練習してから本番に臨む姿は真剣そのもの。その成果もあって、オープンスタジオの壁には力作が揃いました。

作花麻帆 | 本館学芸員補助

Editors' Choice MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

MUSEUM SHOP 定休日: 休館日に同じ Tel: 078 855 5697



ディスプレイされた8点のほかこれまでの展覧会ポスターも販売しています



色鮮やかなプリントTシャツは、一枚で着てもお洒落

当館ミュージアムショップでは、常時8点のポスターを販売しています。不定期に入れ替えを行っており、開催中の展覧会に合わせてラインナップを変更することも。当館初のポスター展となった「横尾忠則展 枠と水平線と…」では、出品作品と同じポスターをショップにも取り揃え、会場に展示されている作品を実際に購入することが可能に。当館ならではのコレクションといえます。逆に、会場にはこの展覧会のためにデザインされた広報用のポスターが出品作品として展示されました。展覧会をご覧になった方は、お気づきになりましたか? さて、アパレルにも随時新商品が入荷しています。2種類のロングTシャツは、横尾さんが1973～74年に雑誌の取材で訪れた日本各地の風景を描いた「日本原景旅行」シリーズより、《阿蘇山・草千里》《高千穂峰II》(1974年、兵庫県立美術館蔵)をプリントしたものの。肌寒くなるこれからの季節、上着の下に着るのにピッタリです。

林 優 | 本館学芸員

アーカイブルーム



《横尾忠則COLLECTION宣言 瀧狂》1996 | 横尾忠則現代美術館蔵

並々ならぬ収集癖をお持ちの横尾さん。代表的なコレクションのひとつが「瀧のポストカード」です。1988年頃、横尾さんは瀧の夢を連続的に見たことをきっかけに、瀧をテーマとした作品を多数制作。参考資料として集めた国内外の瀧のポストカードはなんと1万枚以上にもなり、展覧会や書籍として発表されています。企画展「枠と水平線と…」ではポスター作品とともに、アーカイブ資料から書籍『瀧狂 横尾忠則 Collection 中毒』を展示しました。アーカイブルームでは、横尾さんが収集されたポストカードや横尾さんの瀧に関するインタビュー記事・エッセイの掲載雑誌なども保存しており、作品制作の過程やその広がりがうかがえる資料群となっています。



瀧のポストカードコレクション。ごく一部です



奥野雅子 | 本館学芸員補助